

3- 1 日本史

研究・教育活動の概要と特色

日本史専攻分野は、法文学部創設の翌年に設置された 86 年の伝統をもつ研究室で、これまで国内において日本史の研究・教育の拠点的役割を果たしてきた。研究・教育活動の概要・特色は次の通りである。(1) 広い視野に立ち総合的であるとともに、史料に基づいた厳密な実証的日本史研究をめざす。(2) 教員を中心とする研究は、古代史では日本史学と考古学を結びつけ、都城、東北辺境、木簡の史料学的研究、中世史では室町時代の国家・社会と宗教の関係、東北と九州の周縁地域の比較研究、近世史では家と村、そこを場とした生活・思想・文化の研究、史料学、近現代史では政治・経済・外交を結びつけ国際的視野からの研究に取り組み、満州事変以後の戦時動員体制、東南アジアへの経済進出の研究などを進めている。(3) 教育では、基本的に学生の内発的な問題意識を重視し、古代から近現代までの各時代の政治・経済・社会・文化・生活などの各分野の研究が自由できるように指導している。学部教育では、自ら史料を分析して課題にアプローチし、自分の考えを論理的に表現できる能力の養成によって、専門的研究の基礎能力を培うとともに、一般的職業人としての能力を養う。大学院教育では専門的研究者を育成する。(4) 学部・大学院を通して史料の調査・整理法を修得させアーキビストとして能力を育成する。

I 組織

1 教員数 (2009 年 9 月末現在)

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：今泉隆雄、大藤修

准教授：柳原敏昭、安達宏昭

助教：風間亜紀子

2 在学生数 (2009年9月末現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
35	3	12	16	0

3 修了生・卒業生数 (2005～2009年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	18	10	4
06	17	7	3
07	16	6	5
08	12	3	3
09	0	0	0
計	53	26	15

* 2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2005～2009年度)

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	1	0	1
06	3	0	3
07	3	2	5
08	4	0	4
09	0	1	1
計	11	3	14

* 2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

布谷陽子、2005年度、『中世王家領の研究—女院領の伝領と王家の追善仏事—』

審査委員：教授・今泉隆雄(主査)、教授・大藤修、教授・佐藤弘夫、助教授・柳原敏昭、助教授・安達宏昭

兼平賢治、2006 年度、『近世武家社会の形成と東北諸藩 ——一七世紀にみる武家社会の転換—』

審査委員：教授・大藤修(主査)、教授・今泉隆雄、教授・佐藤弘夫、助教授・柳原敏昭、助教授・安達宏昭

中野渡俊治、2006 年度、『古代日本における太上天皇と皇位継承』

審査委員：教授・今泉隆雄(主査)、教授・大藤修、教授・川合安、助教授・柳原敏昭、助教授・安達宏昭

伊藤大介、2006 年度、『近代日本における雪害運動と地域振興』

審査委員：教授・大藤修(主査)、教授・今泉隆雄、教授・吉原直樹、助教授・柳原敏昭、助教授・安達宏昭

渡邊 俊、2007 年度、『日本中世の刑罰と社会の研究』

審査委員：教授・今泉隆雄(主査)、教授・大藤修、教授・熊本崇、准教授・柳原敏昭、准教授・安達宏昭

片岡耕平、2007 年度、『日本中世の秩序意識—穢を分析概念として—』

審査委員：教授・今泉隆雄(主査)、教授・大藤修、教授・佐藤弘夫、准教授・柳原敏昭、准教授・安達宏昭

栗原伸一郎、2007 年度、『「奥羽越」列藩同盟の形成過程に関する研究』

審査委員：教授・大藤修(主査)、教授・今泉隆雄、教授・佐藤勝則、准教授・柳原敏昭、准教授 安達宏昭

寺崎保広、2007 年度、『古代日本の都城と木簡』

審査委員：教授・今泉隆雄(主査)、教授・大藤修、教授・阿子島香

岡田清一、2007 年度、『鎌倉幕府と東国』

審査委員：教授・今泉隆雄(主査)、教授・大藤修、教授・佐藤弘夫、准教授・柳原敏昭

中野 良、2008 年度、『日本陸軍の軍事演習と地域社会—「軍—地域関係史」の一試論—』

審査委員：教授・大藤修(主査)、教授・今泉隆雄、教授・佐藤勝則、准教授・柳原敏昭、准教授 安達宏昭

高橋陽一、2008 年度、『近世の旅と地域社会・権力に関する研究』

審査委員：教授・大藤修(主査)、教授・今泉隆雄、教授・佐藤弘夫、准教授・柳原敏昭、准教授・安達宏昭

鈴木琢郎、2008 年度、『古代大臣制の研究』

審査委員：教授・今泉隆雄（主査）、教授・大藤修、教授・川合安、准教授・柳原敏昭、准教授・安達宏昭

風間重紀子、2008年度、『日本古代国家と寺院造営』

審査委員：教授・今泉隆雄（主査）、教授・大藤修、教授・長岡龍作、准教授・柳原敏昭、准教授・安達宏昭

柳原敏昭、2009年度、『日本中世国家周縁地域史の研究』

審査委員：教授・今泉隆雄(主査)、教授・大藤修、教授・佐藤弘夫

2 大学院生等による論文等発表

2-1 論文等数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	8	7	4	2	21
06	11	9	3	3	26
07	17	9	4	9	39
08	14	7	2	1	24
09	20	5	2	2	29
計	70	37	15	17	139

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	0	11	12	2	25
06	2	9	9	3	23
07	0	15	8	3	26
08	1	8	11	5	25
09	1	6	5	2	14
計	4	49	45	15	113

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文・書評・史料紹介等

相澤秀太郎「紹介 工藤雅樹著『平泉への道—国府多賀城・胆沢鎮守府・平泉藤原氏—』」、『国史談話会雑誌』第47号、p109～p112、2006年

相澤秀太郎他「細井計編『東北史を読み直す』」、共著、『歴史』第108輯、p103

～p105、2007年

相澤秀太郎「第78次調査の漆紙文書」、『宮城県多賀城跡調査研究所年報2007』、
p52～p61、2008年3月、(吉野武氏と連名)

相澤秀太郎「宮城歴史科学研究会 第11回歴史学入門講座参加記」、『宮城歴史
科学研究』第66号、2009年3月

赤塚美保「明治維新时期における藩財政—秋田藩を対象として—」、『国史談話会雜
誌』第46号、pp.25-45、2006年

天野真志「文久・元治期における秋田藩の情報政策—京都・江戸との関わりから—」、
『東北文化研究室紀要』第48号、pp45-61、2007年

天野真志『原町市史5 近世 資料編Ⅲ』、南相馬市、第9章「幕末・維新」分担、
pp.648-798、2007年

天野真志「書評：藤田覚著『近世後期政治史と対外関係』」、『歴史』第109輯掲
載予定、2007年

天野真志「禁門の変と秋田藩—内乱回避をめぐる諸藩周旋活動の一側面—」、『文
化』72-1・2、2008年

天野真志「幕末平田国学と秋田藩—文久期における平田延太郎(延胤)の活動を中
心に—」、『東北文化研究室紀要』第50集、2009年

天野真志「禁門の変と秋田藩—内乱会費をめぐる諸藩周旋活動の一側面—」、『文化』
第72巻第1・2号、1-18頁、2008年

石川光年「紹介 入間田宣夫著『平泉藤原氏と南奥武士団の成立』」、『国史談話会
雑誌』48、65～67頁、2007年11月

伊藤健策「戦時期日本学生の修学旅行と「朝鮮」認識」、『国史談話会雑誌』第
46号、pp.46-70、2006年

伊藤大介「雪害対策調査会における審議過程の分析—国有林問題と満洲移民問題を
中心に—」、『文化』第69巻第3・4号(通号372・373号) pp.177～196、2006
年

遠藤みどり「7、8世紀皇位継承における譲位の意義」、『ヒストリア』第209号、
2008年

遠藤みどり「日中譲位考—君主位継承における皇太子の位置づけをめぐる—」、
『歴史』第113輯、1-17頁、2009年9月25日発行予定

大内正臣「陸上・水上交通」、『史学雑誌』2008年度回顧と展望 第118編第5号、
123-124頁、2009年

- 小佐野浅子「石岡城（外城）の成立とその軍事的位置」『常総の歴史』第 35 号、43 頁～51 頁、2007 年（2005 年発表論文の転載）
- 小佐野浅子「武田勝頼年表」、柴辻俊六・平山優編『武田勝頼のすべて』、新人物往来社、249 頁～259 頁、2007 年
- 小佐野浅子「武田領国の土豪層と地域社会」、平山優・丸島和洋編『戦国大名武田氏の権力と支配』、325-363 頁、岩田書院、2008 年
- 小佐野浅子「二〇〇八年の歴史学界—回顧と展望— 日本（中世）七」、『史学雑誌』118-5、87-89 頁、2009 年 5 月
- 小野澤 眞「中世における「悪」— “新仏教” の成立の基層をたどる視点から—」悪党研究会編『悪党と内乱』悪党論集②、岩田書院、2005 年 5 月
- 小野澤 眞「中世都城における聖の展開—東山・靈山時衆と京都におけるその意義—」五味文彦・菊地大樹編『中世の寺院と都市・権力』山川出版社、2007 年 4 月
- 小野澤 眞「【巻頭口絵】番場蓮華寺梵鐘・附解説」『寺社と民衆』2 号、民衆宗教史研究会、pp01-02、2006 年 3 月
- 小野澤 眞「一向俊聖教団の歴史的意義とその再検討」『文化』70 卷 1・2 号、東北大学文学会、pp01-17、2006 年 9 月
- 小野澤 眞「【研究ノート】「時衆」再考—林讓氏の近論を承けて—」『寺社と民衆』4 号、民衆宗教史研究会、pp18-37、2007 年 3 月
- 小野澤 眞「【巻頭口絵・解説】埼玉県川口市所在名号板碑断片」『寺社と民衆』5 特別号、民衆宗教史研究会、pp01-03、2009 年 3 月
- 小幡圭祐「開拓使の果樹栽培奨励施策」、『国史談話会雑誌』第 47 号、pp.56-74、2006 年
- 風間亜紀子「文書行政における告朔解の意義」、『正倉院文書研究』第 10 号、pp.31-61、2005 年
- 片岡耕平「「従産穢内迎取養育」考」、『年報中世史研究』第 30 号、pp.33-50、2005 年
- 片岡耕平「中世の穢観念と神社」、『日本歴史』第 688 号、pp.18-33、2005 年
- 片岡耕平「永長の大田楽の動向 - 日本中世天皇の権威についての一考察 -」、『ヒストリア』第 206 号、2007 年
- 片岡耕平「「神国」の形成」、永井隆之・片岡耕平・渡邊俊共編『日本中世の NATION - 統合の契機とその構造 - 』岩田書院、2007 年

片岡耕平「書評 入間田宣夫編『東北中世史の研究』」、『歴史』第106輯、2006年

片岡耕平「日本中世成立期における触穢観の変容と社会関係」、『史学雑誌』第117編10号、2008年

高橋秀幸・齋藤文良・片岡耕平「研究所の改組・転換」、東北大学百年史編集委員会編『東北大学百年史2 通史2』、532-559頁、東北大学出版会、2009年

加藤諭「昭和初期東北地方における百貨店の催物—三越仙台支店、藤崎を事例に—」、『東北文化研究室紀要』通巻第48集、2007年

加藤諭「百貨店による物と文化の地方波及—通信販売から百貨店の成立へ—」、山川出版社『歴史と地理 日本史の研究』通巻612号、pp1-15、2008年

加藤諭「戦前期における百貨店の催物—三越支店網を通じて—」、『文化』第73巻第1・2号、2009年発行予定

兼平賢治「徳川家綱政権の殉死禁止令と東北諸藩」、細井計編『東北史を読み直す』、吉川弘文館、pp.190-225、2006年

兼平賢治編『東北文化資料叢書第1集 守山御日記』、東北大学大学院文学研究科東北文化研究室、298、2006年

兼平賢治「「秘記」にみる元禄から寛保年間の盛岡藩（2）—殉死禁止令公布後の盛岡藩主の死にみる主従観の転換—」、細井計と共著、『東北福祉大学研究紀要』第29巻（通巻32号）、pp.19-41、2005年

兼平賢治「東北の馬にみる幕府御用馬購入策の変遷」、『日本歴史』第711号、pp.17-33、2007年

兼平賢治『原町市史5 近世 資料編Ⅲ』、南相馬市、第1章「中村藩の検地と租税の沿革」（pp.2-41）、第3章「家・家族と原町商人」（pp.220-387）分担、2007年

栗原伸一郎「『奥羽越』列藩同盟の成立」、東北電力株式会社広報・地域交流部発行、創童舎制作『白い国の詩』通巻592号（2005年12月号）、pp.4-9、2005年

小滝雅人「古代伝馬制の利用について」、『国史談話会雑誌』第49号、2008年

後藤彰信「石川三四郎の自由恋愛と社会構想—本郷教会と平民社における自由恋愛論争と国家魂論争—」、『初期社会主義研究』第18号、pp.76-86、2005年

後藤彰信「石川三四郎の思想形成と伝統思想」、松永昌三編『近代日本文化の再発見』岩田書院、2006年

- 後藤彰信「石川三四郎と吉野作造の思想的軌跡とその交差 ―本郷教会時代と石川の帰国をめぐる―」、『国史談話会雑誌』第47号、pp75-92、2006年
- 後藤彰信「石川三四郎の神観念と統合原理の模索―『新紀元』から一九三〇年代へ―」、『初期社会主義研究』第19号、pp74-83、2006年
- 後藤彰信「博物館における職場体験学習と歴史意識の形成についての覚書」、『東北歴史博物館研究紀要』第7号、pp37-40、2006年
- 坂田美咲「近世後期宿場社会の犯罪と内済―奥州郡山宿を事例に―」（『歴史』、東北史学会、第111輯、2008年
- 佐々木淳「近世初期仙台藩領の年貢割付状」、『古文書通信』82号、2009年
- 佐竹輝昭「近世初期における譜代成りの構造」、『日本歴史』716、2008年
- 佐竹輝昭「軍記物語と関八州観念」、『文化』70巻3・4号掲載予定、2008年
- 佐竹輝昭「徳川家綱期における大名・旗本の参勤交代一覧表（1）」、『東北近世史』第33号掲載予定、2008年
- 佐竹輝昭「関ヶ原合戦」、「幕藩制」、「前中期幕政」、「幕府役職」、「幕府制度」、「旗本・御家人」、『史学雑誌』2008年度回顧と展望、第118編第5号、109-111頁、2009年
- 佐竹輝昭「近世初期における徳川領国と旧佐竹領」、第59回地方史研究協議会大会成果論集（書名未定）、名著出版、2009年10月刊行予定
- 佐藤大介「鈴木宗尹と幕末維新期の食料確保をめぐる地域社会構造―羽州村山郡尾花沢村を事例に―」、渡辺尚志編『近代移行期の名望家と地域・国家』名著出版、pp.377-422、2006年
- 佐藤和賀子「占領期における地域婦人団体と天皇制―山形県婦人連盟と皇室―」、『総合女性史研究』第22号、pp.1―20、2005年
- 澁谷悠子「弘前城下A寺過去帳について」、『津軽の近世墓標―附編 津軽の寺院過去帳―』弘前大学人文学部文化財論ゼミナール調査報告VII、pp60―84、2007年
- 関根達人・澁谷悠子「津軽の近世墓標・過去帳にみる社会階層」、『北方社会史への視座』第1巻、2007年
- 関根達人・澁谷悠子「墓標からみた江戸時代の人口変動」、『日本考古学』第24号、2007年
- 澁谷悠子「書評 高木正朗編著『一八・一九世紀の人口変動と地域・村・家族―歴史人口学の課題と方法―』」、『歴史』第113輯、2009年9月25日発行予定

- 菅原朋浩「「軍都」仙台の慰霊～「賊軍」の解消と「軍都」への転換～」、『国史談話会雑誌』第49号掲載予定、2008年
- 菅原朋浩 紹介：『鹿沼市史 通史編 近現代』（鹿沼市、2006年3月）、『国史談話会雑誌』第49号、2008年
- 菅原朋浩「紹介 菊地慶子『「杜の都・仙台」の原風景—樹木を育てた城下町—』、『宮城歴史科学研究』65号、2009年発行予定
- 高橋雄七「『奥様』の役割—秋田藩所預かり佐竹南家慶寿院の例—、『東北近世史』第29・30合併号、2005年
- 高橋雄七「武士身分の入寺—秋田藩所預佐竹南家を例として—、『東北文化研究室紀要』第48号、pp17-44、2007年
- 高橋雄七「女性の里方「家」について—秋田藩主家及び重臣の「家」意識—、『出羽路』第144、1-17頁、2009年
- 高橋陽一「近世の温泉運営と湯守・村—陸奥国名取郡秋保温泉を事例に—、『歴史』第104輯、pp.57-81、2005年
- 高橋陽一「近世の温泉史料にみる争論—〈史料紹介〉陸奥国玉造郡大口村・藤島家文書（上）—、『東北文化研究室紀要』通巻第46集、pp.15-50、2005年
- 高橋陽一「近世後期の川渡温泉—〈史料紹介〉陸奥国玉造郡大口村・藤島家文書（下）—、『東北文化研究室紀要』第47集、pp.15-42、2006年
- 高橋陽一「仙台藩の温泉と金山方」、『東北近世史』第31号、pp.1-12、2006年
- 高橋陽一「近世後期の仙台藩領の温泉について—湯守の位置と集団形成—、『文化』第70巻3・4号、pp.73-91、2007年
- 高橋陽一「近世の温泉と領主政策—仙台藩領の温泉を事例に—、『日本歴史』第708号、pp.63-79、2007年
- 高橋陽一編『東北文化資料叢書 第二集 川渡温泉史料』、東北大学大学院文学研究科東北文化研究室、2007年
- 高橋陽一「近世の旅先地域と諸営業—上野国吾妻郡草津村を事例に—、『地方史研究』第338号、5-25頁、2009年
- 高橋陽一「書評 原淳一郎著『近世寺社参詣の研究』、『民衆史研究』第76号、65-75頁、2008年
- 平川新・高橋陽一『歴史探訪 関山街道を歩く』、東北建設協会、2009年
- 武林弘恵「盛岡藩の遊郭をめぐる社会関係について」、『歴史』第105輯、pp.71-104、2005年

- 張 基善 「江戸時代における幕医・藩医の社会的地位試論」、『国史談話会雑誌』第 47 号、2007 年
- 張 基善 「仙台藩における諸医師とその把握・動員」、『歴史』第 109 輯、2007 年
- 手嶋泰伸 「日中戦争初期における米内光政の基礎的研究」『国史談話会雑誌』第 48 号、2007 年
- 手嶋泰伸 「第一次日独伊三国同盟交渉と日本海軍」、『歴史』第 110 輯、2008 年
- 手嶋泰伸 「鈴木貫太郎内閣の対ソ和平交渉始動と米内光政」、『日本歴史』第 735 号、66-84 頁、2009 年
- 手嶋泰伸 「海軍よりみた小磯国昭内閣」『軍事史学』第 45 卷 2 号研究ノート 2009 年 9 月発表予定
- 手嶋泰伸 「民間人ブレイントラストの設立と日本海軍」、『ヒストリア』217 号、2009 年 10 月発表予定
- 徳竹剛 「歴史資料保全活動におけるホームページの役割」、『宮城歴史科学研究』第 59 号、pp.6-11、2006 年
- 徳竹剛 「通年動員態勢下における学徒勤労働員—東北帝国大学法文学部伊勢崎隊—」『東北大学史料館紀要』第 2 号、2007 年 3 月
- 徳竹剛 『平成 17～18 年度 文化庁委嘱事業 「文化財の震災保護対策に関する調査研究事業」報告書』、宮城歴史資料保全ネットワーク、共著、2007 年
- 徳竹剛 「鈴木しづ子著『『男女同権論』の男—深間内基と自由民権の時代』」『地方史研究』第 334 号、2008 年 8 月
- 徳竹剛 「明治初期における地域有力者の政治的活動—福島県安積郡郡山宿の官民関係を手がかりに—」、『歴史』第 111 輯、53-78 頁、2008 年
- 徳竹剛 「三新法体制下における地域振興—福島県庁移転運動を事例に—」、『日本歴史』第 738 号、2009 年 11 月 1 日発行予定
- 栃木智子 「郡役所文書の引継・廃棄目録について」、『近代史料研究』6 号、pp42-70、2006 年
- 栃木智子 「郡役所廃止と文書廃棄」（「行政文書保存の過去・現在・未来～宮城県公文書館企画展示「みやぎの市町村合併」によせて～」報告要旨）、『宮城歴史科学研究』第 61 号、pp16-19、2006 年
- 栃木智子 『平成 17～18 年度 文化庁委嘱事業 「文化財の震災保護対策に関する調査研究事業」報告書』、宮城歴史資料保全ネットワーク、共著、2007 年

- 永井隆之「加賀白山麓山内の一向一揆」、入間田宣夫編『東北中世史の研』、高志書院、2005年
- 永井隆之「王孫から国民へ」、日本史の方法研究会『日本史の方法』第3号、2006年
- 永井隆之「所・在所」、仙台市史編さん委員会『仙台市史 特別編7城館』、2006年
- 中川淳「中世史料に見える「心落」の語義とその変遷—寄付的・扶助的行為検討の前提として—」、『日本歴史』第715号、2007年
- 中島耕二「ジュリア・カローザス」、『明治学院大学キリスト教研究所紀要』第38号、2005年
- 中島耕二「日露戦争時の宗教問題と宣教師—桂首相と宣教師W・インブリーの関係を中心にして—」、『歴史』第106輯、pp.122~143、2006年4月
- 中島耕二「明治32年改正条約実施と外国ミッションの対応—米国長老教会ミッションを事例として—」、『キリスト教史学』第60集、pp.69~86、2006年7月
- 中島耕二「明治三二年改正条約実施と外国ミッションの財政移転問題」、『キリスト教史学』第61集、pp.47-69、2007年
- 中島耕二「J・H・バラ—日本基督公会の創設者—」、有隣新書『横浜開港と宣教師たち』有隣堂、2008年9月
- 中島耕二「日本基督一致教会初代牧師・戸田忠厚」、明治学院大学キリスト教研究所『紀要』第41号、2008年12月
- 中島耕二「明治三二年文部省訓令一二号と外国ミッションの対応」、『歴史』113輯 2009年10月刊行予定
- 中島耕二「明治二三年インブリー事件」、明治学院大学キリスト教研究所『紀要』第42号、2009年12月刊行予定
- 永塚昌仁「鎌倉殿護持僧についての一考察—源家三代期から宗尊親王期までを中心に—」、『山形大学歴史・地理・人類学論集』第8号、pp36-54、2007
- 中野良「大正期日本陸軍の軍事演習」、『史学雑誌』第114編第4号、pp.53-76、2005年
- 中野良「軍事演習の政治的側面—行軍演習における住民教化と地域の反応—」、『日本歴史』第706号、pp54-69、2007年
- 中野良「1920年代の陸軍と民衆—軍事演習における賠償問題を中心に—」、『日

- 本史研究』第 535 号、pp.129-146、2007 年
- 中野良「紹介 大谷正著『兵士と軍夫の日清戦争 一戦場からの手紙を読む』」『歴史評論』第 688 号、pp.103-104、2007 年
- 布谷陽子「承久の乱後の王家と後鳥羽追善仏事」、羽下徳彦編『中世の地域と宗教』、pp.229-264、吉川弘文館、2005 年
- 布谷陽子「長講堂領の変遷と出羽国大泉庄一奥羽の王家領をめぐって一」、入間田宣夫編『東北中世史の研究』上巻、pp.145-171、高志書院、2005 年
- 橋本今祐「開化期の若松県における村芝居の存立環境一村中・若衆中の奉納行動をめぐって一」、『芸能史研究』182 号、2009 年 1 月
- 橋本今祐「開化期の御蔵入領における芸能興行の存立環境一若松県胃村の村芝居観客を中心に一」、『日本歴史』73 号、2009 年 3 月
- 橋本今祐「開化期の芸能政策と興行取締りの実際一興行免許地の制限令をめぐって一」、『歴史』113 輯、2009 年 10 月公表予定
- 橋本今祐「近代の芸能興行取締りの動向一明治期の福島県を中心に一」、『福大史学』80 号、2009 年 11 月公表予定
- 速水健児「近世佐渡における書籍を巡るネットワークと医師・海運業者一柴田収蔵日記を中心として一」、『国史談話会雑誌』第 47 号、pp.29 - 55、2006 年
- 広瀬隆行「身分とジェンダー」、『史学雑誌』2008 年度回顧と展望、第 118 編第 5 号、127-128 頁、2009 年
- 堀田幸義「近世武家記録にみる「生」と儀礼一『伊達治家記録』より一」（解題・補注およびデータベース）、国立歴史民俗博物館共同研究「生老死と儀礼に関する通史的研究 I」平成 16 年度報告書、pp.77-220、2005 年
- 堀田幸義「近世武家記録にみる「老・死」と儀礼一『伊達治家記録』より一」（データベース）、国立歴史民俗博物館共同研究「生老死と儀礼に関する通史的研究 I」平成 17 年度報告書、pp.61-106、2006 年
- 松崎瑠美「中近世移行期における女性の役割と奥向一薩摩藩島津家を事例として一」、『比較家族史研究』21 号、pp.39-55、2007 年
- 松崎瑠美「近世前期から中期における薩摩藩島津家の女性と奥向」、『歴史』第 110 輯、pp.19-46、2008 年
- 宮田直樹「近世後期越後縮布流通の一考察一縮間屋加賀屋の江戸・京出役を中心に一」、『国史談話会雑誌』第 49 号、2008 年
- 宮田直樹「職人・手工業」、「商品流通」、「商家経営」、「市場論」、「商人論」、『史学

雑誌』2008年度回顧と展望、第118編第5号、121-123頁、2009年
森谷円人『原町市史5 近世 資料編Ⅲ』、南相馬市、第9章「幕末・維新」分担
(pp.648-798)、2007年
森谷圓人「村落と地域社会」、「土地制度・税制」『史学雑誌』2008年度回顧と展望、
第118編第5号、116-118頁、2009年
門馬健「「世話集聞記」に見る会津藩の政治行動 - 文久政変に至るまで - 」『国史
談話会雑誌』第47号、2007年
山本享史「八世紀における地方の錢貨の存在形態」、『国史談話会雑誌』第46号、
pp.1-24、2005年
吉川圭太・伊藤大介・椿井達也「宮城資料ネットの活動と成果 — 歴史資料所在調
査における諸技術について—」、『歴史』第107輯、pp.83-96、2006年10月
吉川圭太『平成17～18年度 文化庁委嘱事業「文化財の震災保護対策に関する調
査研究事業」報告書』、宮城歴史資料保全ネットワーク、共著、2007年
吉川圭太「第一次大戦後における弁護士布施辰治の思想と行動 —その職務観の変
遷を中心に—」、『歴史』第109輯、2007年11月
吉川圭太「布施辰治」、伊藤隆・季武嘉也編『近現代日本人物史料情報辞典 3』、
吉川弘文館、2007年
吉川圭太「1920年代社会運動における法的実践—借家人運動を中心に—」(仮題)、
『民衆史研究』78号、2009年12月公表予定
渡邊俊「使庁と没官領—『宝鏡寺文書』所収売券案の考察—」、『日本歴史』第
681号、pp.1-15、2005年

(2) 口頭発表

相澤秀太郎「阿倍比羅夫の北方遠征と肅慎」、東北史学会、弘前大学、2006年10
月8日
相澤秀太郎「蝦夷表記の成立」、東北史学会、東北大学、2007年9月30日
赤塚美保「明治維新时期における藩財政—秋田藩を対象として—」、2005年度、国
史談話会大会、東北大学文学部、2005年6月12日
安宅俊介「幕末期の軍事と負担—新発田藩における農兵取り立てを事例に—」、第
46回地方史研究協議会日本史関係卒業論文発表会、駒沢大学、2005年4月
16日
安宅俊介「藩領農兵と大庄屋の軍事行政—新発田藩を事例に—」、東北史学会近世

近代史部会、福島大学、2005年10月2日

天野真志「幕末期秋田藩の京都警衛問題と「言路閉塞」—藩内平田国学派勢力への
対応をめぐって—」 2008年東北近世史サマーセミナー 於山形県東根市
2008年8月31日

天野真志「幕末京都政局と京都留守居役—秋田藩長瀬直温の事例から—」、東北史
学会大会研究報告（日本近世・近代史部会）、秋田大学、秋田県秋田市、2008
年10月5日

石川光年「鎌倉幕府の所領没収」、国史談話会大会、東北大学文学研究科、2007
年6月9日

伊藤健策「戦時期日本学生の修学旅行と『朝鮮』認識」、国史談話会大会、東北大
学文学部、2005年6月12日

遠藤みどり「古代日本における譲位と群臣推戴」、東北史学会、福島大学、2005
年10月2日

遠藤みどり「立太子儀からみた皇太子の特質」、2007年度東北史学会、東北大学、
2007年9月30日

遠藤みどり「日中譲位考—君主位継承における皇太子の位置づけをめぐって—」王
権研究会第17回例会、國學院大學渋谷キャンパス、東京都渋谷区、2008年
11月23日

遠藤みどり「記紀皇后観の成立」2009年度国史談話会大会研究報告、東北大学、宮
城県仙台市、2009年6月13日

遠藤みどり「令制キサキ制度の成立」東北史学会大会研究報告（日本古代・中世史
部会）、東北大学、宮城県仙台市、2009年10月3日発表予定

小佐野浅子「富士山麓地域における土豪層の動向と結合形態」、東北中世史研究会
サマーセミナー、福島県会津若松市、2005年8月6日

小佐野浅子「国衆；郡内小山田氏についての研究史把握」、武田氏研ワーキンググ
ループ、慶應義塾大学、2005年11月26日研究会

小佐野浅子「中近世移行期駿河芹沢氏に関する基礎的研究」、武田氏研究会ワーキ
ンググループ、山梨県史編纂室、2006年11月4日

小佐野浅子「戦国期甲斐国都留郡小林氏に関する基礎的考察」、第331回戦国史研
究会例会、新宿区立図書館、2007年6月9日

小佐野浅子「中近世移行期の土豪層の動向」、武田氏研究会ワーキンググループ、
慶應義塾大学、2007年9月15日

- 小佐野浅子「中近世移行期の駿河芹沢氏の動向」、東北学院大学中世史研究会第 34 回大会、東北学院大学土樋キャンパス、宮城県仙台市、2008 年 12 月 6 日
- 小幡圭祐「北海道開拓使の果樹栽培奨励施策」、2006 年度国史談話会大会、東北大学文学部、2006 年 6 月 11 日
- 小幡圭祐「明治初期井上馨と大蔵省勸農政策」、内務省研究会、慶應義塾大学、2008 年 5 月 31 日
- 小野澤眞「「新仏教」形成過程と東寺における庶民信仰」東寺文書研究会第 17 回例会、京都商工会議所 2 階第 1 教室、2008 年 8 月 3 日
- 小野澤 眞「一遍房智眞による「時衆」創始の意味—新仏教成立の基層として—」、民衆宗教史研究会例会、佛教大学 8 号館 1 階共同資料室、2006 年 12 月 10 日
- 小野澤 眞「時衆成立史と真宗—「一向衆」の分岐点を中心として—」、同朋大学仏教文化研究所真宗史研究会第 18 回例会、同朋大学成徳館 3 階 J301 教室、2008 年 6 月 28 日
- 小野澤 眞「「新仏教」形成過程と東寺における庶民信仰」、東寺文書研究会第 17 回例会、京都商工会議所 2 階第 1 教室、2008 年 8 月 3 日
- 風間亜紀子「阿弥陀浄土院造営の再検討」、東北史学会大会、弘前大学、2006 年 10 月 8 日
- 片岡耕平“A Study of the Recognition to the Concept of Kegare in Medieval Society”
CSSI Workshop、仙台市、2005 年 11 月 21 日
- 片岡耕平「『神国』の形成」、全国中世史サマーセミナー、岩手県平泉町、2006 年 8 月 21 日
- 片岡耕平「日本中世社会における触穢の社会的意義」、六軒丁中世史研究会、東北学院大学、2007 年 7 月 7 日
- 片岡耕平「聖なるものの転換をめぐって」、東北中世史研究会シンポジウム、仙台市戦災復興記念館、2008 年 8 月 10 日
- 片岡耕平「日本中世の疾病観について—世界観をめぐる議論の一視点として—」、東北史学会大会研究報告（日本古代・中世史部会）、秋田大学、秋田県秋田市、2008 年 10 月 5 日
- 加藤諭「昭和初期における地方百貨店の催物」、東北近世史研究会春の例会、片平市民センター、2007 年 3 月 3 日
- 加藤諭「戦前期の地方都市における百貨店成立過程」、東北史学会大会、東北大学、2007 年 9 月 30 日

- 加藤諭「戦前期における百貨店の地方進出—大都市百貨店の地方支店設置を中心に—」、史学会大会、東京大学、2007年11月18日
- 加藤諭「戦前期地方都市における百貨店—大都市百貨店の地方支店設置を中心に—」、近現代日本の生活様式と社会環境からみた都市と農村の比較研究研究会（科研費補助金基盤研究(B)）、於名古屋大学、2008年8月1日
- 加藤諭「社会生活から読む近代日本史」学都「仙台・宮城」、サイエンスデイ 2009 東北大学、宮城県仙台市、2009年7月5日
- 加藤諭「戦前期東北における百貨店の展開」、宮城歴史科学研究会例会、東北大学、宮城県仙台市、2009年7月18日
- 兼平賢治「東北の馬にみる幕府御用馬購入策の変遷と幕府政治」、全国近世史サマナーセミナー、宮城県東松島市かんぼの宿松島、2007年7月15日
- 金 銀貞「平城宮庭園に関する考察—西池宮を中心に—」、東北史学会大会研究報告（日本古代・中世史部会）、東北大学、宮城県仙台市、2009年10月3日発表予定
- 小滝雅人「古代伝馬制のあり方」、第49回地方史研究協議会日本史関係卒業論文発表会、國學院大學、2008年4月19日
- 坂田美咲「近世後期の宿場社会と犯罪—奥州郡山宿を事例に—」、第48回地方史研究協議会日本史関係卒業論文発表会、駒沢大学、2007年4月21日
- 佐竹輝昭「近世初期における徳川鎖国と常陸」、地方史研究協議会大会、常磐大学、2008年10月19日
- 佐藤和道「日本古代の祥瑞思想」、2009年度国史談話会大会研究報告、東北大学、宮城県仙台市、2009年6月13日
- 佐藤大介「19世紀仙台領における地域有力者の存在状況—中井家文書「御賞人数留」の分析から—」、COE国際シンポジウム「近世・近代の日本・韓国における中間層」、2006年2月18日
- 佐藤大介「名望家たちの奥羽横断道路構想—明治初期の山形・宮城両県における地域振興策をめぐって—」、東北史学会、東北大学、2007年9月30日
- 佐藤幸辰「戦国・織豊期における『取次』の機能と性格」、東北中世史研究会、東北大学、2005年11月12日
- 澁谷悠子「“松前稼”の実態」『墓石から見た松前藩と近世日本』、松前町町民総合センター、北海道松前町、2009年8月23日シンポジウム
- 菅原朋浩 「「軍都」仙台の慰霊～「賊軍」の解消と「軍都」への転換～」、国史談

- 話会、東北大学文学部、2008年6月14日
- 鈴木琢郎「大臣曹司と公卿の内裏侍候」、全国古代史サマーセミナー、信貴山、2005年8月25日
- 高橋雄七「角館の歴史とまちづくり—みんなの力でできた城下町—」平成20年度美の国ルッジ[®] 仙北キャンパス開講記念講演、仙北市角館交流センター、秋田県仙北市、2008年10月11日
- 高橋陽一「近世・仙台藩領の温泉について—川渡温泉を中心に—」、第1回東北文化研究会、東北大学、2006年6月22日
- 高橋陽一「近世における温泉運営の展開—草津温泉を事例に—」、民衆思想研究会、専修大学、2006年12月16日
- 高橋陽一「18～19世紀における温泉運営の展開—草津温泉を事例に—」、東北近世史研究会3月例会、仙台市片平市民センター、2007年3月3日
- 高橋陽一「幕末～明治初期における旅先地域の運営体制—秋保温泉の事例を中心に—」、東北史学会大会、東北大学、2007年9月30日
- 高橋陽一「近世における旅先地域の成り立ちと展開—上野国吾妻郡草津村を事例に—」、関東近世史研究会9月度例会、前橋中央公民館、2008年9月27日
- 高橋陽一「合評会報告：青柳周一・高埜利彦・西田かほる編『近世の宗教と社会第1巻 地域のひろがりと宗教』」、論集『近世の宗教と社会』合評会、学習院大学、2008年12月14日
- 高橋陽一「近世における旅先地域の成り立ちと展開—上野国吾妻郡草津村を事例に—」、関東近世史研究会・群馬歴史民俗研究会例会〈合同開催〉、前橋中央公民館群馬県、前橋市2008年9月27日
- 高橋陽一「名所の歴史的展開と寺社・宗教者」、歴史学研究会日本近世史部会12月例会・近世の宗教と社会研究会『近世の宗教と社会』合評会〈合同開催〉、学習院大学、東京都豊島区、2008年12月14日
- 張 基善「仙台藩の『浪人』」、東北近世史研究会春のセミナー、宮城県丸森町国民宿舎あぶくま荘、2006年3月4-5日
- 張 基善"Disappeared Vagabond: The Ronin's Social Status in Edo Period Sendai-han"
15th Annual Graduate Student conference on East Asia, Columbia University,
New York, USA, February 10-11, 2006
- 張 基善 「仙台藩の『医師証文』と医学知識の機能」、全国近世史サマーセミナー、宮城県東松島市かんぼの宿松島、2007年7月15日

- 張 基善 「仙台藩の『医師証文』と医学知識の機能」、東北近世史研究会 5 月例会、東北大学、2007 年 5 月 26 日
- 手嶋泰伸 「海軍における『統制』観念と米内光政」、第 47 回地方史研究協議会日本史関係卒業論文発表会、國學院大學、2006 年 4 月 22 日
- 手嶋泰伸 「米内光政内閣再考」、第 226 回梧陰文庫研究会、國學院大學渋谷キャンパス、東京都渋谷区、2009 年 4 月 18 日
- 手嶋泰伸 「日本降伏の政治過程と米内光政」、現代史サマーセミナー、大野木荘、静岡県静岡市、2009 年 8 月 9 日
- 手嶋泰伸 「ロンドン海軍軍縮問題における日本海軍」、東北史学会大会研究報告（日本近世・近代史部会）、東北大学、宮城県仙台市、2009 年 10 月 3 日発表予定
- 手嶋泰伸 「東条英機内閣末期における海軍の倒閣運動」、第 107 回史学会研究報告、東京大学、東京都文京区、2009 年 11 月 8 日発表予定
- 徳竹剛 「明治初期における地方殖産興業政策と地域の担い手—町場商人の地域振興策—」、東北近世史研究会 2006 年夏のセミナー、相馬市、2006 年 8 月 27 日
- 徳竹剛 「明治初期の地域振興策の展開」、東北史学会大会、弘前大学、2006 年 10 月 8 日
- 徳竹剛 「岩越線の起点獲得運動—町場から地方都市へ—」、仙台近現代史研究会・第 3 回セミナー、かんぼの宿松島、宮城県東松島市、2009 年 9 月 12 日
- 栃木智子 「郡役所廃止と文書廃棄」、宮城歴史科学研究会例会、宮城県公文書館、2006 年 1 月 14 日
- 栃木智子 「引継・廃棄目録にみる郡役所文書」、東北近世史研究会春のセミナー、国民宿舍あぶくま荘、2006 年 3 月 5 日
- 栃木智子 「引継・廃棄目録にみる郡役所文書」、日本近代史研究会、筑波大学大塚キャンパス、2006 年 4 月 1 日
- 栃木智子 「大正期・宮城県伊具郡における郡行政の展開」、仙台近現代史研究会、東北学院大学、2007 年 1 月 24 日
- 永井隆之 「王孫から国民へ」、奈良女子大学 COE 第 5 グループ、奈良女子大学、2005 年 5 月 8 日
- 永井隆之 「戦国時代の村の王孫思想」、日本宗教学会大会、関西大学、2005 年 9 月 18 日
- 永井隆之 「惣村の王孫意識」、日本思想史学会大会、東京大学、2005 年 10 月

- 中川淳「「世間」にみる代表具現的公共圏の崩壊と中世的「公」の構造」東北史学会大会、東北大学、2007年9月30日
- 中島耕二「明治三十二年改正条約実施と外国ミッションの対応」、キリスト教史学会、関東学院大学関内メディアセンター、2005年9月18日
- 中島耕二「明治三十二年改正条約実施と外国ミッションの財産移転問題」、キリスト教史学会第57回大会、神戸海星女子学院大学、2006年9月29日
- 中島耕二「明治三十二年文部省訓令第一二号と外国ミッションの対応」、教育史学会第51回大会、四国学院大学、2007年9月22日
- 中島耕二「日本基督一致教会初代牧師・戸田忠厚」、横浜プロテスタント史研究会287回例会、日本キリスト教団横浜指路教会、2007年12月15日
- 中島耕二「横浜開港と宣教師たち」、有隣堂座談会、横浜東急ホテル、2008年5月22日
- 中野良「秋季機動演習における陸軍と地域 ―憲兵・下士卒・参観者・地方商人―」、東北近世史研究会夏のセミナー、ホールサムインばんじ、2005年8月28日
- 中野良「秋季機動演習における軍―地域関係」、東北史学会大会、福島大学、2005年10月2日
- 中野良「憲兵史料から見た軍事演習と地域」、史学会大会、東京大学、2005年11月13日
- 中野良「1920年代の陸軍と民衆 ―軍事演習における賠償問題を中心に―」、日本史研究会大会、京都大学、2006年10月29日
- 中野良「日本陸軍の演習と「典範令」」、仙台近現代史研究会第1回セミナー兼東北学院大学オープン・リサーチ・センター第3回研究会、ホールサムインばんじ、2007年9月23日
- 橋本今祐「開花期における会津御蔵医療の芸能興行の存立環境」、第44回芸能史研究大会、京都市勧業館、2007年6月3日
- 橋本今祐「開花期における会津御蔵医療の芸能興行の存立環境」、国史談話会大会、東北大学大学院文学研究科、2007年6月9日
- 速水健児「近世村社会における書籍を媒介としたネットワーク―蘭学者の日記を中心として―」、2006年度国史談話会大会、東北大学文学部、2006年6月11日
- 藤井敦史「日本古代の関と割」、国史談話会大会、東北大学文学部、2005年6月12日

堀田幸義「『伊達治家記録』中に見る「生」関連記事のデータベース化作業について」、国立歴史民俗博物館共同研究「生老死と儀礼に関する通史的研究Ⅰ」平成17年度第1回研究会、国立歴史民俗博物館、2005年4月29日

堀田幸義「『伊達治家記録』「老」・「死」関連記事のデータベース化作業について」、国立歴史民俗博物館共同研究「生老死と儀礼に関する通史的研究Ⅰ」平成17年度第2回研究会、国立歴史民俗博物館、2005年7月16日

堀田幸義「『伊達治家記録』に見る「老」・「死」関係記事および関連史料について」、国立歴史民俗博物館共同研究「生老死と儀礼に関する通史的研究Ⅰ」平成17年度第4回研究会、国立歴史民俗博物館、2006年1月9日

松崎瑠美“*The Gender System of the Buke Society in the Edo Period and the Role of Women*”、東北大学大学院文学研究科21世紀COEプログラムワークショップ、東北大学、2006年4月24日

松崎瑠美“*The Gender System of the Samurai Society and the Role of Women in Early Modern Japan: A Case Study of the Shimazu Family in the Satsuma-han*”、東北大学大学院文学研究科21世紀COEプログラムワークショップ、東北大学、2006年11月27日

松崎瑠美“*The Wives' Posts and Roles in Early Modern Japan: A Case Study of the Shimazu Family in the Satsuma-han*”、東北大学大学院文学研究科21世紀COEプログラムワークショップ、東北大学、2007年7月23日

松崎瑠美「奥向を通じた幕藩関係—薩摩藩島津家を事例として—」、東北史学会大会、東北大学、2007年9月30日。

松崎瑠美「近世武家社会のジェンダー・システムと女性の役割」、第6回東北大学男女共同参画シンポジウム、仙台国際センター、2007年11月17日

松崎瑠美「近世大名家の家族と政治—薩摩藩島津家を中心に—」、比較家族史学会研究大会第50回記念大会、東北大学、2008年6月21～22日

松崎瑠美“*Family and Gender in the Edo period*”、東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラムワークショップ、東北大学、宮城県仙台市、2008年12月1日

松崎瑠美“*Family and Gender in Premodern Japan*”、*The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia*、延世大学、韓国ソウル、2009年3月12～13日国際シンポジウム

松崎瑠美“*Family and Gender Inequality in the Edo Period and Early Modern Japan*”、

Society for East Asian Anthropology Taiwan Society for Anthropology and Ethnology
Taipei 2009、中央研究院民族学研究所、台湾台北、2009年7月2～5日

宮田直樹「近世後期越後縮布流通の一考察—縮問屋加賀屋の江戸・京出役を中心に—」、地方史研究協議会・第49回日本史関係卒業論文発表会、國學院大學渋谷キャンパス、東京都渋谷区、2008年4月19日

山本享史「八世紀における地方の錢貨の存在形態」、国史談話会大会、東北大学、2005年6月12日

油井航「古代海部氏の系図の成立過程」、国史談話会大会、東北大学、2006年6月11日

油井航「古代地方豪族・海部直氏の二種の系図の比較検討」、山形大学歴史・地理・人類学研究会大会、山形大学、2006年10月14日

吉川圭太「「集団自決」をめぐる教科書問題の経過と問題点」、宮城歴史科学研究会例会、東北学院大学、2008年2月23日

吉川圭太「1930年代における布施辰治と土地制度研究—『奥の入会紀行』を中心に—」、岩手近現代史研究会（第38回研究会）、岩手県立大学アイーナキャンパス、2009年3月10日

吉川圭太「1920年代の社会運動と弁護士集団—自由法曹団の結成と動向—」、日本史研究会近現代史部会（6月部会）、機関紙会館、2009年6月25日

3 大学院生・学部生等の受賞状況

栗原伸一郎 第3回徳川奨励賞、財団法人徳川記念財団、2005年度

松崎瑠美 平成17年度東北大学男女共同参画奨励賞（沢柳賞）プロジェクト部門特別賞、東北大学男女共同参画委員会、2005年度

渡邊 俊 平成18年度日本歴史学会賞、2006年度

坂田美咲 平成18年度総長賞（学部）、2006年度

倉本大樹 平成19年度総長賞（学部）、2007年度

茂木謙之介 平成20年度総長賞（学部）、2008年度

高橋陽一 平成20年度総長賞（大学院）、2008年度

4 日本学術振興会研究員採択状況

2004年度 PD採用 1人

2007年度 DC採用 1人

2009年度 PD採用 1人 DC採用 2人（1人は就職のため辞退）

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

3人

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	0	0	0
06	2	1	3
07	3	1	4
08	4	0	4
09	1	1	2
計	10	3	13

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	2	1	3
06	1	0	1
07	1	1	2
08	0	0	0
09	0	1	1
計	4	3	7

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

七海雅人 東北学院大学文学部助教授 2005年度

中野渡俊治 東北大学大学院文学研究科助手 2005年度

伊藤大介 東北大学東北アジア研究センター研究員 2005年度

堀田幸義 宮城教育大学教育学部助教授 2006年度

椿井達也 尾花沢市歴史資料館学芸員 2006年度

兼平賢治 宮城県公文書館専門員 2006年度
佐藤大介 東北大学東北アジア研究センター研究員 2007年度
栗原伸一郎 東北芸術工科大学文化財保存修復センター研究員 2007年度
渡邊 俊 ノースアジア大学教養部講師 2008年度
永井隆之 中華人民共和国浙江工商大学日本語講師 2008年度
中野渡俊治 花園大学文学部専任講師 2009年度
風間亜紀子 東北大学大学院文学研究科助教 2009年度
江田郁夫 栃木県立博物館学芸員 2009年度
坂田美咲 仙台市博物館学芸員 2009年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

高校教員 6人
出版社社員 2人
新聞社社員 1人
図書館職員 2人

8 客員研究員の受け入れ状況

釜慶大学校（大韓民国）助教授 申宗大 2007年7月1日～2008年5月30日

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『歴史』 東北史学会 毎年度2回刊行
『国史談話会雑誌』 東北大学国史談話会 毎年度1回刊行。

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005～2009年度 東北史学会事務局
2005～2009年度 国史談話会事務局
2005～2009年度 宮城歴史科学研究会事務局
2005～2009年度 国史談話会大会開催
2005～2009年度 東北史学会大会開催

- 2006年度 国際シンポジウム「近世・近代の日本・韓国における中間層」開催
2006年度 全国中世史サマーセミナー開催（事務局）
2007年度 全国近世史サマーセミナー開催（事務局）
2007年度 国際シンポジウム「日本と韓国のジェンダー」開催

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

- 古代史研究会 研究室の学生を中心とする。毎週開催。
中世史研究会 研究室の学生を中心とする。毎週開催。
近世史研究会 研究室の学生を中心とする。毎週開催。
近代史研究会 研究室の学生を中心とする。毎月開催。
古代史懇話会 研究室構成員と学外者。毎年例会2回。
東北中世史研究会 研究室構成員と学外者。毎年例会3回程度、サマーセミナー1回。
東北近世史研究会 研究室構成員と学外者。毎年セミナー2回。
仙台近現代史研究会 研究室構成員と学外者。毎年例会3回程度、セミナー1回

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

日本史専攻分野の教員は現在、教授2人、准教授2人、助教1人で、古代・中世・近世・近現代の各時代の専門家をそろえ、専門的な教育ができる陣容を備えている。学年ごとに、学部学生の定員は15人、大学院の定員の目安は前期課程4人、後期課程2人である。この5年間、学部は2007年度の2年次生以外は定員を満たしている。大学院は、2009年度をのぞき前期・後期課程ともに定員を上回っており、本研究室在籍者総数は、研究生等の非正規学生も含めると恒常的に80人以上、年度によっては90人以上に上り、教員の教育面での負担は重い。

学部教育は、内発的な問題意識をもって、自ら課題を設定し、自分の考えを論理的に表現できる能力の養成を目標にし、2年次に古文書学、各時代の日本史基礎講読、3年次から各時代の日本史演習、日本史実習の授業を配し、史料の読解力、論文の理解力などの基礎学力を身につけさせ、4年次に卒業論文あるいは卒業研究の作成を行わせている。卒業論文はテーマに関わる史料の分析にもとづいて自身の見解を論述させ、卒業研究は卒業論文より大きなテーマに関する学説史の整理をさせている。大学院進学希望者は卒業論文を義務づけているが、就職希望者であっても毎年度、大半は卒業論文を選択している。卒業論文では毎年、学会誌に発表できるレベルのものが2、3本はあり、地

方史研究協議会主催の日本史関係卒業論文発表会にも毎年1名参加し、高い評価を得ている。東北大学総長賞も日本史専修学生が過去5年間で3名受賞した。

毎年、学部3年生を対象に研修旅行を実施し、史跡や歴史系の博物館・史料館・文書館などを見学させ、歴史を肌で感じさせることも試みている。行き先は学生の希望によって決め、奈良・京都が多いが、2005年度は北九州、2008年度は中国地方にて実施した。研修旅行は学生たちに自主的に企画・実施させており、歴史教育という面のみならず、企画力や行動力を培い、学生相互および学生と教員の親睦を深める上でも大きな意義をもっている。

以上、総じて学部教育で意図しているところは達成できていると評価できる。

一方、大学院においては、学部で培った基礎的学力を基に自己の研究を進展させ、修士論文・博士論文を完成させるように指導している。また、歴史学の教育のみならず、学部では日本史実習、大学院では史料管理学の授業を設けてアーキビスト養成教育も行っている点が本研究室の特徴であり、2009年度から開始された大学院 GP「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」とも連携し、アーカイブズ学について講義するとともに、史料の調査・整理実習を行っている。2004年度以降は、2003年の宮城県北部地震で被災し、本学の日本史関係の教員・学生が救出活動を行ったのが機縁となって本学附属図書館に寄贈された宮城県河南町齋藤家史料の整理を進めている。戦前には全国第2位の巨大地主家であった齋藤家伝来史料群は10万点を超えると予想される膨大なもので、全国的に注目を集めており、2007年7月には仙台放送が「シリーズ東北大学百年物語」の一環として、その整理作業取材し放映した。2003年から宮城歴史資料保全ネットワークが、宮城県北部地震で被災した歴史資料の救出と、予想される宮城県沖地震に備えるための地域伝来の史料の所在調査を行っているが、その主体となっているのは本研究室の学生であり、地域の史料保存への貢献は大なるものがある。

本研究室は東北地方の日本史研究の拠点として活動してきており、研究室には東北史学会（日本史・東洋史・ヨーロッパ史・考古学の研究者を網羅する東北地方最大の歴史学会）と国史談話会（本研究室の教員・在籍学生・卒業生・大学院修了生からなる同窓の学会）の事務局が置かれ、運営の中心を担っている。毎年、大会を開催し、定期の機関誌を刊行しているが、東北史学会と国史談話会の両大会ともに講演会は一般市民にも公開しており、研究成果の社会への普及の機会ともなっている。特に2009年度東北史学会大会では、上記大学院 GP との共催で、国際シンポジウム「文書館・博物館のこれからとアーキビスト・キュレーター養成」を開催し、大きな成功を収めた。

この他、本研究室の教員・学生と外部の研究者によって古代史懇話会、東北中世史研

研究会、東北近世史研究会が組織され、例会とセミナーを開催している。2006年度には、新たに仙台近現代史研究会も発足し、活動を開始した。2006年度と2007年度は、本研究室の大学院生が事務局を務めて、それぞれ全国中世史サマーセミナー、全国近世史サマーセミナーを開催した。前者の成果は、大学院生が編者となった研究書として出版された。2008年8月に行われた東北中世史研究会主催シンポジウムの記録集も出版されている。学生の自主的な研究会活動も活発であり、古代・中世・近世・近代の時代別に研究会が組織され、毎週、読書会や史料講読会を開催している。また、宮城歴史科学研究会の運営においても本研究室の教員と大学院生が事務局を担い、中心的な役割を果たしている。

本文学研究科主宰「21世紀COEプログラム 社会階層と不平等研究教育拠点の形成」(2003～2007年度)、「グローバルCOEプログラム 社会階層と不平等研究教育拠点の世界的展開」(2009年度～)には、本専攻分野より大藤修が事業推進担当者として参画した。またCOEに研究員に1名、COE大学院生に計3名、グローバルCOEに研究員1名、大学院生1名が採用され、学際的な研究活動を行ってきた。その一環として、日本史専攻の研究員と大学院生が企画して、2005年度は「近世・近代の日本・韓国における中間層」、2007年度は「日本と韓国のジェンダー」というテーマで国際シンポジウムを開催した。

過去5年間における大学院生の論文等の発表や学会・研究会での口頭発表は総じて活発であったと評価できる。2006年度より文学研究科東北文化研究室が刊行を開始した『東北文化資料叢書』も第1、2集は本研究室の大学院生が編集を担当しており、『東北文化研究室紀要』にも毎年論文を発表するなど、東北文化研究室の活動への貢献度は高いものがある。課程博士の学位は、コンスタントに毎年2、3名が取得している。優れた研究成果をあげた若手研究者に授与される日本歴史学会賞、徳川奨励賞も、前者は1名、後者は2名が受賞した。東北大学総長賞受賞者も1名いる。日本学術振興会研究員の採用件数は、一時減少したが、2009年度にはP.D.1名、D.C.2名(うち1名は就職により辞退)が採用されている。毎年の学界動向をサーベイする『史学雑誌』の所謂「回顧と展望」は、重要な企画である。2005年には今泉隆雄(日本古代)が、2009年には大藤修(同近世)と柳原敏昭(同中世)が、研究室員とその出身者、在仙研究者を組織して担当した。大学院生も多数執筆した。

本学創立100周年記念事業の一環として進められている東北大学百年史編纂事業においては、本専攻分野の教員が中心的な役割を担っており、今泉隆雄が編集委員会委員長・編纂室長、大藤修が編集委員会委員と通史専門委員会委員・部会長をそれぞれ務め

ているほか、柳原敏昭・安達宏昭の両名も執筆を担当し、同事業の一環としての研究活動も行っている。また、本研究室の大学院生も編纂業務を手伝っている。東北大学創立100周年記念展示「東北大学の至宝」（2007年9月～12月、江戸東京博物館・仙台市博物館）においても、今泉隆雄が同展対応作業部会主査、柳原敏昭が部会員として、展示、図録作成、フロアレクチャー等を行い、成果を『ものがたり東北大学の至宝』（共著、東北大学出版会、2008年）として刊行した。

この他、各教員と大学院生が東北地方の自治体史編纂事業に委員として参画し、その一環として史料の調査・保存活動と地域史研究を進めている点も、本研究室の特色である。

活動の場は国際的にも広がっている。今泉隆雄が中国・ベトナムで複数回調査を行い、今泉・大藤修・柳原敏昭が、韓国・インドネシア・シンガポールで学会報告や講演を行っている。大学院生も内外の国際学会で発表している。

Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

今泉隆雄「文献史料からみた7世紀の陸奥南部」、日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会編『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』、pp.397-406、2005.

今泉隆雄「古代国家と郡山遺跡」、仙台市文化財調査報告書第283集『郡山遺跡—総括編（1）—』、pp.284-318、仙台市教育委員会発行、2005.

今泉隆雄・藤沢敦「古代史の舞台 東北」、共著、上原真人ほか編『列島の古代史 1 古代史の舞台』所収、pp.63-110、岩波書店、2006.

今泉隆雄「郡山遺跡から多賀城へ」、『第34回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』、pp.161-166、2008.

大藤 修「小経営・家・共同体」、歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』第6巻、東京大学出版会、pp.1-32、2005.

大藤 修「『土の哲学』と『金銭の哲学』」、『報徳学』第2号、国際二宮尊徳思想学会、pp.33-39、2005.

大藤 修「秋田藩佐竹家子女の人生儀礼と名前一徳川将軍家と比較して—」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、pp.173-223、2008.

大藤 修「日本近世の身分・階層・ジェンダー」、原純輔他編『社会階層と不平等』、

- 放送大学教育振興会、pp.86-97、2008.
- 大藤 修「姓・名字・名前に探る日本の歴史—身近な事象から歴史を考える—」、
『米沢史学』第24号、pp.1-31、2008.
- 柳原敏昭「中世万之瀬川下流地域の様相について—近世絵図を手がかりとして—」、
羽下徳彦編『中世の地域と宗教』、吉川弘文館、pp.166-190、2005.
- 柳原敏昭「東北大学附属図書館所蔵『森潤三郎氏旧蔵米原文書』小考—伝来につい
ての考察と中世関連文書の紹介—」、入間田宣夫編『東北中世史の研究』下
巻、高志書院、pp.343-382、2005.
- 柳原敏昭「東北と琉球弧—島尾敏雄『ヤポネシア論』の視界—」、『東北文化研究
室紀要』48、pp.97-106、2007.
- 柳原敏昭「薩摩国阿多郡地頭鮫島氏系譜考」、峰岸純夫・入間田宣夫・白根靖大編
『中世武家系図の史料論』上巻、高志書院、pp.193-221、2007.
- 柳原敏昭「東北帝国大学時代の栗原百寿」、『六軒丁中世史研究』13、
pp.118-132、2008.
- 柳原敏昭「東北帝大入学前後の大島正隆」、『東北中世史研究会会報』18、
pp.1-16、2008.
- 柳原敏昭「滝川事件と東北帝国大学」、『宮城歴史科学研究』66、2009年12月刊
行予定。
- 柳原敏昭「太田正雄東北帝大医学部教授（木下奎太郎）と学生たち」、人文社会科
学講演シリーズIV『東北人の自画像』、東北大学出版会、2010年3月刊行予定。
- 安達宏昭「大学教育における映像資料利用に関する覚書—地域史に関する映像資料
の教育的効果の検討—」、平成17年度教育研究改革・改善プロジェクト成果
報告書『東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化』、pp.3~8、
2005.
- 安達宏昭「『大東亜建設審議会』と『経済建設』構想の展開—『大東亜産業（鉱業、
工業及電力）建設基本方策』を中心に—」、立教大学史学会『史苑』第66巻
第1号、pp.4~29、2005.
- 安達宏昭「戦時期の『大東亜経済建設』構想—『大東亜建設審議会』を中心に—」、
同時代史学会編『日中韓ナショナリズムの同時代史』日本経済評論社、pp.
93-121、2006.
- 安達宏昭「『大東亜建設審議会』」と『食糧自給』構想」、東北史学会『歴史』第
108号、pp. 1-29、2007.

安達宏昭「戦時動員体制と立教中学校」、老川慶喜・前田一男編『ミッションスクールと戦争—立教学院のディレンマ』東信堂、499p、pp.307-337、2008.

安達宏昭「『決戦体制』下の『大東亜建設審議会』と繊維原料増産」、『東北大学文学研究科研究年報』第58号、2009.

安達宏昭「『決戦体制』下の『大東亜建設審議会』と鉱産資源開発」、『日本植民地研究』第21号、2009.

風間亜紀子「阿弥陀浄土院造営機構の再検討」、『ヒストリア』第207号、pp.31-53、2007.

1-2 著書・編著

今泉隆雄『人文科学ハンドブック ースキルと作法一』（共著）、（中村捷編）、東北大学出版会、215p、pp.46-52、（「図書館を活用しよう」執筆）、2005.

今泉隆雄『百済研究叢書第13輯 古代都市と王権』（共著）、韓国忠南大学校百済研究所、韓国語、401p、pp.353-389、（「日本古代の都城と時刻制」執筆）、2005.

今泉隆雄『人文社会科学講演シリーズ I 東北—その歴史と文化を探る』（共著）、（花登正宏編）、東北大学出版会、174p、pp.39-77、（「郡山遺跡の時代」執筆）、2006.

大藤 修『仙台市史 通史編5 近世3』（共著）、難波信雄／平川 新／大藤修他17名著、仙台市、631p、pp.380-398（第6章第1節「養賢堂の拡充」執筆）、2005.

大藤 修『原町市史 第5巻 資料編Ⅲ「近世」』（編共著）、大藤 修（責任編集）/堀田幸義/兼平賢治他4名、福島県南相馬市、852p、pp.534-604（第7章「報徳仕法」校訂）、pp.800-838（「解題」執筆）、2007.

大藤 修『東北大学百年史 通史編1』（編共著）、東北大学出版会、（「イールズ事件」「文・法・経三学部の分立」執筆）、2007.

大藤 修『叢書仙台・江戸学講座 仙台藩の学問と教育—江戸時代における仙台の学都化—』（単著）、大崎八幡宮、70p、2009.

大藤 修『検証 イールズ事件—占領下の学問の自由と大学自治—』（単著）、清文堂出版、2009年未刊行予定

柳原敏昭『青森県史 資料編 中世2』（共著）、青森県、（分担執筆 第I部「東北大学附属図書館所蔵秋田家史料」）、2005.

柳原敏昭『仙台市史特別編7 城館』（共著）、仙台市、（分担執筆 第一部「市内の中世城館」IV「北目領」）、2006.

柳原敏昭『御館の時代—十二世紀の奥羽・会津・越後—』（飯村均氏と共編）、高志書院、2007.

柳原敏昭『中世会津の風景』（飯村均氏と共編）、高志書院、2007.

柳原敏昭『東北大学百年史 通史編1』（共著）、東北大学出版会、（「戦前期東北大学の学生運動」「人民戦線事件と大学自治問題」執筆）、2007.

柳原敏昭『東北大学百年史 通史編3』（共著）、東北大学出版会、（「帝国大学時代の『生協』—医学部自治会と法文共済部—」執筆）、2010年3月刊行予定。

安達宏昭『人文社会ハンドブック』（共著）（中村捷編）東北大学出版会、pp.148-151、2005.

安達宏昭『年報・日本現代史 第10号 「帝国」と植民地—「大日本帝国」崩壊六〇年—』（共編）（「年報日本現代史」編集委員会編）現代史料出版、2005.

安達宏昭『年報・日本現代史 第11号 歴史としての日本国憲法』（共編）（「年報日本現代史」編集委員会編）現代史料出版、2006.

安達宏昭『年報・日本現代史 第12号 現代歴史学とナショナリズム』（共編）（「年報日本現代史」編集委員会編）現代史料出版、2007.

安達宏昭『年報・日本現代史 第13号 戦後体制の形成』（共編）（「年報日本現代史」編集委員会編）現代史料出版、2008.

安達宏昭『日本植民地研究の現状と課題』（共編）（日本植民地研究会編）アテネ社、2008.

安達宏昭『東北大学百年史 通史編2』（共著）、東北大学出版会、（「国際交流と産学連携」「キャンパス移転」執筆）、2008.

安達宏昭『仙台市史 通史編7 近代2』（共著）、仙台市、（分担執筆 第11章「戦時体制と仙台空襲」）、2008.

安達宏昭『年報・日本現代史 第14号 高度成長の史的検証』（共編）（「年報日本現代史」編集委員会編）現代史料出版、2009.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 研究ノート

今泉隆雄「都市空間の成立とゴミ問題の発生—松井氏へのコメント—」、『東北文

化研究室紀要』第 49 集、pp.26-27、2008.

大藤 修「近世文書の様式と身分格式・官僚制」、『日本歴史』第 691 号、日本歴史学会、pp.37-39、2005.

大藤 修「無苗字・片苗字・諸苗字—仙台藩の書札礼—」、『日本歴史』第 704 号、日本歴史学会、pp.108-109、2007.

柳原敏昭「十二世紀の奥羽越と会津」、『文化財シンポジウム「十二世紀の奥羽越」報告書』、福島県河沼郡会津坂下町教育委員会、pp.5-13、2006.

柳原敏昭「『寺塔已下注文』の新解釈について」、入間田宣夫編『平泉・衣川と京・福原』、pp.192-198、高志書院、2007.

柳原敏昭「滝川事件を語り伝える一枚のビラ—東北大学史料館所蔵『大学自由擁護連盟を提唱す』—」、『東北大学百年史編纂室ニュース』13、pp.4-7、2008.

柳原敏昭「奥羽古代・中世交易史—西と南を視野に入れて—」、『季刊 東北学』16、pp.45-51、2008.

(2) 書評

今泉隆雄「2004 年の歴史学界—回顧と展望—」「日本 古代—」、『史学雑誌』114 編 5 号、pp.40-42、2005.

大藤 修「能代市史編纂委員会編『能代市史 特別編・民俗』」、『国史談話会雑誌』第 47 号、国史談話会、pp.102-108、2006.

大藤 修「瀬谷義彦『水戸藩郷土制度の研究』」、『常総の歴史』第 36 号、pp.98-102、2007.

大藤 修「2008 年の歴史学界—回顧と展望— 日本近世」（共著）、『史学雑誌』第 118 編第 5 号、pp.105-107（「日本近世総論」執筆）、pp.107-109（「中世・近世移行期」執筆）、2009.

柳原敏昭「2008 年の歴史学界—回顧と展望— 日本（中世） 1 総論」、『史学雑誌』118-5、pp.73-76、2009.

安達宏昭「書評と紹介：柳沢遊・木村健二『戦時下アジアの日本経済団体』」、日本歴史学会『日本歴史』第 686 号、pp.124-126、2005.

中野渡俊治「2004 年の歴史学界—回顧と展望—」「日本 古代三」（吉田歓・岡崎玲子と分担執筆）『史学雑誌』114 編 5 号、pp.、2005.

(3) 辞典項目

大藤 修「宗門人別改帳」「服忌令」、『民俗小事典 死と葬送』、吉川弘文館、2005.

大藤 修「家」「一夫一婦制」「一夫多妻」「隠居・隠居分」「人身売買」「長子相続」「宮座」、『日本女性史大辞典』、吉川弘文館、2007.

(4) 解説

柳原敏昭「奥羽史料調査部」、東北大学創立 100 周年記念展示図録『東北大学の至宝一史料が語る世紀一』、東北大学、pp33-40、2008.

柳原敏昭「奥羽史料調査部一地域史研究の先駆一」、『東北大学の至宝』東北大学出版会、pp47-60、2008.

(5) 報告書

大藤 修「宮城県河南町旧地主齋藤養之助家史料の整理報告」、平成 16 年度東北大学教育共同プロジェクト成果報告書『東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化』、東北大学大学院文学研究科、pp108-116、2005.

大藤 修「アーカイブズ・システムの整備とアーキビスト養成教育の必要性」、『大学院 GP 歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 2008 年度報告書』、2009 年

柳原敏昭『12～14 世紀日本列島南西部の交易拠点に関する研究』、2004～2006 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 C(2)研究成果報告書、2007.

安達宏昭『「大東亜共栄圏」政策に関する基礎的研究』、2007～2008 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書、2008 年度。

(6) その他

大藤 修「ポスト・百年史編纂」、『東北大学百年史編纂室ニュース』第 13 号、pp.2-3、2008

大藤 修「アーカイブズ・システム整備の必要性」、『東北大学史料館だより』第 9 号、pp.2-3、2008.

柳原敏昭 宮城歴史科学研究会創立 30 周年記念大会報告要旨「仙台城」、『宮城歴史科学研究』63・64 合併号、pp.11-14、2009.

安達宏昭「自校史教育の意義と基盤一二つの大学での経験から一」『東北大学史料

館だより』第10号、pp.2-3、2009.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

柳原敏昭「中世日本の『外国人』居留地」、東北アジア文化学会第13回大会、釜慶大学校、大韓民国釜山広域市、2006年11月25日。

大藤 修「日本近世の生死と葬送・墓制」、シンガポール国立大学主催「近世日本における『死』と『終焉』ワークショップ」、シンガポール国立大学、2009年9月25日。

(2) 国内学会

今泉隆雄「文献史料からみた7世紀の陸奥南部」、単独、日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム『7世紀の東日本—変革期の諸相—』、福島市福島県文化センター、2005年10月23日。

柳原敏昭「仙台城」、宮城歴史科学研究会大会、仙台市、2006年9月30日。

柳原敏昭「滝川事件と東北帝国大学」、宮城歴史科学研究会大会、仙台市、2007年9月15日。

安達宏昭「戦時期の『大東亜経済建設』構想—『大東亜建設審議会』を中心に—」、単独、同時代史学会2005年度年次研究大会、東京・一橋大学、2005年12月4日

安達宏昭「大学における『歴史学』教育の意義と方法—概説科目（教職教科専門科目）に着目して—」、単独、宮城歴史科学研究会大会、仙台市、2008年9月27日。

(3) 研究会

今泉隆雄 第33回古代城柵官衙遺跡検討委員会シンポジウム『陸奥国南部における郡家の構造と変遷』のパネリスト、福島県南相馬市、2007年2月17・18日

今泉隆雄 第1回都城制研究会シンポジウム『宮中枢部の形成と展開—大極殿の成立をめぐる—』のコメンテーター、主催奈良女子大学21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」（代表者舘野和己）

今泉隆雄「都市空間の成立とゴミ問題の発生—松井氏へのコメント—」、東北大学

- 文学研究科東北文化研究室公開シンポジウム「ゴミの文化学—過去と現在」でのコメント、東北大学マルチメディアホール、2007年12月15日。
- 今泉隆雄「郡山遺跡から多賀城へ」、第34回古代城柵官衙検討会の研究報告、東北福祉大学、2008年2月15・16日
- 今泉隆雄「タンロン王宮遺跡出土の文字磚について」、科学研究費「GISを用いた東アジア都市・王城遺跡形成史の比較研究」の研究会の研究報告、三重大学、2008年6月1日
- 大藤 修「宮城県河南町旧大地主齋藤養之助家史料の整理とCOEプログラム」、単独、東北大学21世紀COEプログラム（文学研究科）「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」研究会、東北大学／仙台市、2005年6月28日
- 大藤 修「秋田藩佐竹家子女の人生儀礼と名前一近世前半期における誕生・成育・成人儀礼一」、単独、国立歴史民俗博物館主催「生老死と儀礼に関する通史的研究」研究会、京都女子大学/京都市、2006年10月22日。
- 大藤 修「日本近代巨大地主家（宮城県河南町齋藤家）文書の整理とアーカイブズ学」、単独、東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻主催「歴史資源としての史料分析の現在」、東北大学/仙台市、2007年3月29日。
- 大藤 修「秋田藩佐竹家子女の人生儀礼と名前一徳川将軍家と比較して一」、単独、第46回近世史サマーセミナー、かんぼの宿松島/松島町、2007年7月14日。
- 柳原敏昭「中世万之瀬川下流域の景観と生業」、国立歴史民俗博物館共同研究「生業・権力と知の体系に関する歴史的研究」第5回研究会、鹿児島県南さつま市、2006年8月3日。
- 柳原敏昭「中世前期坊津像の形成と普及」、鹿児島地域史研究会、鹿児島市、2009年3月14日。
- 柳原敏昭「『国際貿易港＝坊津』像の形成」、東北中世史研究会サマーセミナー、福島県喜多方市、2009年8月1日。
- 安達宏昭「『大東亜建設審議会』と『食糧自給』構想」日本植民地研究会、秋季例会報告、東京・立教大学、2006年11月18日。
- 安達宏昭「『決戦体制』下の『大東亜建設審議会』」、仙台近現代史研究会（東北学院大学アジア流域文化研究所共催）第2回セミナー、仙台市、2008年9月20日。
- 安達宏昭「戦時期国土計画と東北地方—仙塩開発を事例に—」、仙台近現代史研究会、第3回セミナー、東松島市、2009年9月13日。

2 教員の受賞歴（2005～2009 年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2005～2009 年度）

（1）科学研究費補助金

平成 17～20 年度 基盤研究（B）：今泉隆雄（研究分担者）「地理情報システムを用いた古代宮都の環境復原と環境史の研究—とくに飛鳥・平城京を中心として—」（研究代表者：林部均）15,000,000 円（4 年総額）

平成 15～17 年度 基盤研究（A）：大藤修（研究分担者）「紙素材文化財（文書・典籍・聖教・絵図）の年代推定に関する基礎的研究」（研究代表：富田正弘），23,800,000 円（3 年総額）

平成 16～18 年度 基盤研究(C)：柳原敏昭（研究代表者）「12～14 世紀日本列島南西部の交易拠点に関する研究」 2,000,000 円（平成 16・17 年度総額）

平成 16～18 年度 基盤研究(B):柳原敏昭(研究分担者)「中世東国武家文書の成立・伝来・分散に関する史料学的研究」（研究代表：村井章介） 9,800,000 円（平成 16・17 年度総額）

平成 16 年度 課題番号:14310135 基盤研究(B)（2）：安達宏昭(研究分担者)「国際環境の中のミッションスクールと戦争—立教大学を事例として—」（研究代表：前田一男）

平成 17～19 年度 基盤研究（B）：今泉隆雄(研究分担者)「地理情報システムを用いた古代宮都の環境復原と環境史の研究—とくに飛鳥・藤原京を中心として—」（研究代表:林部均） 15,000,000 円（3 年総額）

平成 18～21 年度 基盤研究（B） 大藤修（研究代表者）「近代巨大地主家（宮城県河南町齋藤家）文書の整理とアーカイブズ学的研究」 16,000,000 円（4 年総額）

平成 18～20 年度 基盤研究(B)：柳原敏昭（研究分担者）「中近世移行期における鉱山開発と地域社会の変容に関する研究」（研究代表：池享一橋大学教授）60,000（平成 21 年度委任経理金）

平成 19～21 年度 基盤研究(B)：柳原敏昭（研究分担者）「南部光徹氏所蔵「遠野南部家文書」の調査・研究」（研究代表：斉藤利男弘前大学教授） 50,000（平成 21 年度委任経理金）

- 平成 19～21 年度 基盤研究 (C) : 今泉隆雄 (研究代表者) 「日本古代の国家・社会と時刻制」 1,600,000 円 (平成 19 年度)、1,040,000 円 (平成 20 年度) 1,040,000 円 (平成 21 年度)
- 平成 19～23 年度 基盤研究 (A) 今泉隆雄 (研究分担者) 「GIS を用いた東アジア都市・王城遺跡形成史の比較研究」 (研究代表者: 山中章) 13,400,000 円 (平成 19 年度分)
- 平成 19～20 年度 基盤研究(C): 安達宏昭 (研究代表者) 「『大東亜共栄圏』政策に関する基礎的研究」 1,410,000 円 (平成 19～20 年度総額)
- 平成 20～23 年度 基盤研究(A): 柳原敏昭 (研究分担者) 「東北地域及び東アジア諸国における前近代文書等の形態・料紙に関する基礎的研究」 (研究代表: 山本隆志筑波大学教授) 340,000 (平成 21 年度委任経理金)
- 平成 21～23 年度 基盤研究 (A) : 柳原敏昭 (研究分担者) 「協同利用環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」 (研究代表: 近藤成一東京大学教授) 500,000 (平成 21 年度委任経理金)
- 平成 21～23 年度 基盤研究 (C) : 安達宏昭 (研究代表者) 「戦時期日本における広域経済圏構想に関する研究」 700,000 (平成 21 年度分)

(2) その他

- 平成 15～19 年度 21 世紀 COE プログラム : 大藤修 (事業推進担当者) 「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」
- 平成 15～19 年度 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業・オープンリサーチセンター整備事業: 柳原敏昭 (研究分担者) 「アジア流域文化論研究プロジェクト」 (研究代表: 細谷良夫東北学院大学文学部教授)
- 平成 16 年度 総長裁量経費 : 大藤 修・安達宏昭 (研究分担者) 東北大学教育研究共同プロジェクト 「東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化」 (研究代表者: 松本宣郎)
- 平成 17 年度 総長裁量経費 : 今泉隆雄 (研究分担者) 「東北地方における地域研究情報活用拠点の形成」
- 平成 17 年度 研究科長裁量経費 : 今泉隆雄 (研究分担者) 東北文化講演会国際シンポジウム 「山と神—東アジアの視点から—」
- 平成 20 年度 文学研究科長裁量経費 : 大藤 修 (研究代表者) 比較家族史学会第 50 回記念大会シンポジウム 「格差社会と家族」 の開催

平成 20～24 年度グローバル COE プログラム：大藤 修（事業推進担当者） 「社会階層と不平等研究教育拠点の世界的展開」

平成 20～22 年度大学院教育改革支援プログラム：大藤 修（取組実施担当者） 「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」

V 教員による社会貢献（2005～2009 年度）

（1）政府・地方公共団体関係機関などの委員

今泉隆雄

文化庁文化審議会専門委員 2003 年 4 月～現在

文化庁中世城館遺跡・近世大名墓所等保存検討委員会委員 2003 年 4 月～現在

大学評価・学位授与機構人文学系教育評価専門委員会委員 2002 年 8 月～2004 年 7 月

宮城県文化財保護審議会委員 2002 年 4 月～現在、同副委員長 2009 年 4 月～現在、

宮城県多賀城跡調査研究指導委員会委員 1988 年 6 月～現在、同副委員長 2002 年 6 月～現在

宮城県東北歴史博物館資料収集・展示委員会委員 2002 年 4 月～2005 年 3 月

宮城県東北歴史博物館協議会資料収集専門部会委員 2005 年 4 月～現在

青森県史編さん特別専門委員 2005 年 4 月～現在

仙台市文化財保護審議会委員会委員 2005 年 4 月～現在、同副委員長 2009 年 4 月～現在。

仙台市郡山遺跡調査指導委員会委員・副委員長 2005 年 4 月～2007 年 1 月

仙台市郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会副委員長 2007 年 2 月～現在

仙台市史跡仙台郡山官衙遺跡群等保存管理計画策定委員会副委員長 2007 年 8 月～2009 年 3 月

宮城県古川市（大崎市）名生館官衙遺跡発掘調査指導委員 2005 年 7 月～現在
宮城県亘理町三十三間堂官衙遺跡発掘調査・整備検討委員会委員・副委員長
2005 年 7 月～現在

宮城県栗原市史跡伊治城跡保存管理計画策定委員会委員 2005 年 7 月～2006 年 3 月

宮城県栗原市史跡伊治城跡調査整備指導委員会委員 2006年11月～現在
秋田市史跡秋田城跡環境整備指導委員会委員 1987年6月～現在
秋田県大仙市払田柵跡環境整備審議会委員 2005年4月～現在
福島県原町市（南相馬市）泉廃寺跡調査・整備検討委員会委員 2005年12月
～現在
福島県いわき市国史跡根岸官衙遺跡群保存管理計画策定委員会委員長 2007
年1月～2009年3月
ベトナム遺跡の調査 文化庁の要請により、ハノイ市タンロン王宮遺跡の保
存・調査について助言するために調査。2006年2月26日～3月2日。
NPO法人・宮城歴史資料保全ネットワーク理事, 2007年4月～現在

大藤 修

仙台市史編さん委員会調査分析委員 1993年4月～2005年3月
福島県原町市史編さん専門委員会委員・近世部会長 1998年4月～2007年3
月
仙台市博物館協議会委員 2001年4月～現在
一関市芦東山記念館展示専門委員、2006年3月～2007年3月
一関市芦東山記念館運営委員, 2007年5月～現在
NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事, 2007年4月～現在

柳原敏昭

仙台市史編さん調査分析委員 1998年度～2006年度
青森県史編さん専門委員 2000年度～現在
鹿児島県金峰町歴史資料館建設事業に係わる展示監修委員 2004年8月～
2005年2月
仙台市博物館・朝日新聞社・東日本放送主催「興福寺国宝展」実行委員会委
員, 2005年4月～9月
NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク副理事長, 2007年4月～現在
八戸市史編集委員会 原始・古代・中世部会 調査研究員 2008年4月1日～
現在
伊達市宮脇遺跡調査指導委員会委員 2008年7月～現在

安達宏昭

仙台市史編さん調査分析委員 2003年9月～現在

岩沼市史編集専門委員会委員 2009年4月～現在

NPO法人・宮城歴史資料保全ネットワーク 理事 2007年4月～現在

(2) 公開講座等の講師

今泉隆雄

長野高校同窓会金鵝会日本歴史講座「いま明かされる古代ⅩⅢ」、「古代蝦夷

族長の系譜—アザマロとアテルイ—」、2005年5月28日、長野市長野高校

みやぎ県民大学・東北大学大学院文学研究科開放講座『東北—その歴史と文化

を探る』,講演「郡山遺跡の時代」、2005年9月10日、東北大学

福島県立安積高校模擬授業「多賀城の創建と安積采女」、2005年9月27日、

福島県立安積高校

今泉隆雄「陸奥国南部の古代史」 第42回全国史跡整備市町村協議会講演、

福島県南相馬市、2007年10月17日。

今泉隆雄「郡山遺跡とその時代」 仙台市太白区中央市民センター主催「太白

歴史塾 郡山遺跡を学ぶ」 仙台市太白市民センター、2008年7月2日

今泉隆雄「古代の陸奥国と安積郡」 平成20年度第1回郡山市文化財企画展

記念講演会、郡山市民文化センター、2008年7月20日

今泉隆雄「律令国家と蝦夷」 仙台市地底の森ミュージアム特別企画展「陸奥

国大戦争時代—蝦夷と移民—」記念講演会、仙台市富沢市民センター、2008

年8月30日

今泉隆雄「古代の陸奥国と磐城郡」 いわきヒューマンカレッジ(市民大学)、

いわき市生涯学習プラザ、2009年9月4日

大藤 修

東北大学大学院文学研究科・宮城県岩出山町共催「有備館講座」,「姓・苗字・

名前に見る日本の歴史」、2005年8月13日、岩出山町有備館

高等教育仙台主催「講座仙台学2005—学都, その過去・現在・未来—」、

「仙台藩の学問と教育」、2005年10月8日、学都仙台サテライトキャンパ

ス

東北農村文化協会セミナー、「家・村の復興と二宮尊徳」、2005年10月2日、

宮城県教育会館

仙台第二高等学校「一日大学」、「姓・苗字・名前にみる日本の歴史」、2006年12月7日、仙台第二高等学校

東北大学大学院文学研究科・宮城県岩出山町共催「有備館講座」、「墓の語る近世」、2007年8月18日、岩出山町スコレハウス

東北史学会公開講演会、「東北大学イールズ事件検証」、2007年9月29日仙台市博物館

米沢史学会公開講演会、「姓・苗字・名前に探る日本の歴史」、2007年11月24日、米沢女子短期大学

大崎八幡宮主催「江戸・仙台学」、「仙台藩の学問と教育—江戸時代における仙台の学都化」、2008年6月2日、大崎八幡宮

柳原敏昭

東北大学文学研究科有備館講座講演「12世紀日本列島の南と北」、2005年6月18日、宮城県岩出山町有備館

福島県会津坂下町文化財シンポジウム「十二世紀の奥羽越」基調講演「十二世紀の奥羽越と会津」2005年8月27日、福島県会津坂下町中央・坂下公民館
第11回東北中世考古学会宮城大会シンポジウム「中世の聖地・霊場・霊地」司会、2005年9月25日、宮城県多賀城市東北歴史博物館

鹿児島県金峰町「歴史交流館金峰」開館記念講演「中世阿多郡の世界」、2005年10月23日、鹿児島県金峰町歴史交流館金峰。

招待講演“The relationship between medieval Japan and Asia”、2006年5月3日、インドネシアナショナル大学文学部、インドネシア共和国ジャカルタ
東北文化研究室シンポジウム「地域からの視線 地域への視線」、「東北と琉球弧—島尾敏雄『ヤポネシア論』の視界—」、東北大学、2006年10月28日

国史談話会大会公開講演「森鷗外と東北大学」、東北大学、2007年6月9日
東北大学百周年記念展示「東北大学の至宝」フロアレクチャー、江戸東京博物館、2007年9月22日

東北大学百周年記念展示「東北大学の至宝」ミュージアムトーク、仙台市博物館、2007年11月17日

東北大学文学研究科有備館講座「太田正雄東北帝大医学部教授（木下柰太郎）」

と学生たち」、大崎市岩出山町スコアハウス、2007年12月15日
新潟県立高田高等学校高大連携・大学模擬講義「地名から探る日本—アジア交流史」、2007年12月25日、新潟県立高田高等学校
東北大学文学研究科斎理屋敷講座「川から読む中世」、2008年11月1日、宮城県丸森町
新潟県高等学校教育研究会地歴公民部会総会講演「地域史の可能性」、2009年7月3日、新潟市

安達宏昭

東北大学大学院文学研究科・宮城県岩出山町共催「有備館講座」、「デジタルアーカイブで読む戦前の日本」、2008年7月19日、大崎市岩出山町スコアハウス
みやぎ県民大学・東北大学大学院文学研究科開放講座『デジタル・アーカイブと史料分析—日本近現代史を中心に—』,講演、2009年9月16日、東北大学

(3) ボランティア活動

大藤修・柳原敏昭・安達宏昭

宮城歴史資料保全ネットワークの史料保全活動：

宮城歴史資料保全ネットワークの1員として、2003年7月に発生した宮城県北部地震で被災した歴史資料の救出活動と、将来の発生が予想される宮城県沖地震に備えての地域伝来史料の所在調査を実施。

大藤修

芦東山記念館所蔵史料の整理と目録作成 2009年7月29日～31日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009年度）

今泉隆雄

東北史学会評議員 1984年～2006年10月

東北史学会副会長 2006年10月～2007年10月

国史談話会会長 1997年4月～現在

古代学協会東北支部幹事 1993年4月～2006年3月

日本歴史学会評議員 2001年7月～現在

木簡学会委員 1998年12月～2004年11月,同監事 2004年12月～現在
条里制・古代都市研究会評議員 2003年3月～現在
東北史学会会長 2007年10月～2009年10月

大藤 修

比較家族史学会 理事 1995年6月～現在
東北史学会 評議員 1995年10月～現在
東北史学会 理事 1997年10月～2005年10月
東北近世史研究会 会長 1995年4月～現在
史学会 評議員 1999年10月～現在
国史談話会 委員 2006年6月～現在

柳原敏昭

宮城歴史科学研究会委員 1997年9月～現在
東北大学国史談話会役員 1998年6月～現在
東北史学会評議員 1998年10月～現在
東北史学会理事 2003年10月～現在
史学会評議員 2005年11月～現在

安達宏昭

国史談話会委員 2004年6月～現在
東北史学会評議員 2003年10月～現在、
東北史学会理事 2005年10月～現在
日本植民地研究会監査委員 2003年6月～2005年5月
日本植民地研究会運営委員（編集長）2005年6月～2007年5月
日本植民地研究会運営委員（編集委員）2007年6月～現在
宮城歴史科学研究会委員 2005年9月～現在
「年報日本現代史」編集委員会委員 2004年5月～現在
同時代史学会理事、2007年1月～現在
同時代史学会編集委員会副委員長、2008年1月～現在

風間重紀子

木簡学会多賀城特別研究集会運営委員 2009年9月1日～現在

Ⅶ 教員の教育活動（2009年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

今泉隆雄 教授

- | | | |
|------|---------------|-----------|
| 1 学期 | 日本古代・中世史特論Ⅰ | 東北古代史の諸問題 |
| 2 学期 | 日本古代・中世史特論Ⅱ | 律令国家と蝦夷 |
| 1 学期 | 日本古代・中世史研究演習Ⅰ | 律令の研究（1） |
| 2 学期 | 日本古代・中世史研究演習Ⅱ | 律令の研究（2） |
| 1 学期 | 日本古代・中世史研究演習Ⅲ | 古代史料研究（1） |
| 2 学期 | 日本古代・中世史研究演習Ⅳ | 古代史料研究（2） |
| 通年 | 課題研究 | |

大藤 修 教授

- | | | |
|------|-------------|---------------------|
| 1 学期 | 日本近世・近代史特論Ⅰ | 近世史像の現在（1） |
| 2 学期 | 日本近世・近代史特論Ⅱ | 近世史像の現在（2） |
| 1 学期 | 日本近世・近代史演習Ⅰ | 近世の農民日記を読む（1） |
| 2 学期 | 日本近世・近代史演習Ⅱ | 近世の農民日記を読む（2） |
| 1 学期 | 日本近世・近代史演習Ⅲ | 近世史研究実践Ⅰ |
| 2 学期 | 日本近世・近代史演習Ⅳ | 近世史研究実践Ⅱ |
| 2 学期 | 史料学Ⅱ | 近世古文書学 |
| 1 学期 | 史料管理学Ⅰ | 史料保存の意義と調査・整理・保存管理法 |
| 2 学期 | 史料管理学Ⅱ | 史料整理実習 |
| 通年 | 課題研究 | |

柳原敏昭 准教授

- | | | |
|------|---------------|----------------|
| 1 学期 | 日本古代・中世史研究演習Ⅴ | 中世政治・社会史の研究（1） |
| 2 学期 | 日本古代・中世史研究演習Ⅵ | 中世政治・社会史の研究（2） |
| 1 学期 | 日本古代・中世史研究演習Ⅶ | 中世史料演習（1） |
| 2 学期 | 日本古代・中世史研究演習Ⅷ | 中世史料演習（2） |
| 1 学期 | 史料学Ⅰ | 中世古文書演習 |
| 通年 | 課題研究 | |

安達宏昭 准教授

- | | | |
|------|-----------------|------------------|
| 1 学期 | 日本近世・近代史演習 V | 近現代政治・社会史の研究 (1) |
| 2 学期 | 日本近世・近代史演習 VI | 近現代政治・社会史の研究 (2) |
| 1 学期 | 日本近世・近代史演習 VII | 近現代史研究法 (1) |
| 2 学期 | 日本近世・近代史演習 VIII | 近現代史研究法 (2) |
| 通年 | 課題研究 | |

池 享 講師 (非常勤講師・一橋大学)

集中講義 日本古代・中世史特論Ⅲ 日本中近世移行期の社会と国家

2 学部授業担当

今泉隆雄 教授

- | | | |
|---------|---------|-----------------|
| 4 セメスター | 日本史基礎講読 | 古代史料講読 |
| 5 セメスター | 日本史各論 | 東北古代史の諸問題 |
| 6 セメスター | 日本史各論 | 律令国家と蝦夷 |
| 5 セメスター | 日本史演習 | 律令の研究 (1) |
| 6 セメスター | 日本史演習 | 律令の研究 (2) |
| 5 セメスター | 日本史演習 | 古代史料研究 (1) |
| 6 セメスター | 日本史演習 | 古代史料研究 (2) |
| 5 セメスター | 歴史地理 | 日本古代の歴史地理 (理学部) |

大藤 修 教授

- | | | |
|---------|-------|---------------------|
| 5 セメスター | 日本史各論 | 近世史像の現在 (1) |
| 6 セメスター | 日本史各論 | 近世史像の現在 (2) |
| 5 セメスター | 日本史演習 | 近世の農民日記を読む (1) |
| 6 セメスター | 日本史演習 | 近世の農民日記を読む (2) |
| 5 セメスター | 日本史演習 | 近世史研究実践 I |
| 6 セメスター | 日本史演習 | 近世史研究実践 II |
| 6 セメスター | 古文書学 | 近世古文書学 |
| 5 セメスター | 日本史実習 | 史料保存の意義と調査・整理・保存管理法 |
| 6 セメスター | 日本史実習 | 史料整理実習 |

柳原敏昭 准教授

- | | | |
|---------|-------|------------|
| 3 セメスター | 日本史概論 | 日本中世史概説(1) |
| 4 セメスター | 日本史概論 | 日本中世史概説(2) |

- 4 セメスター 日本史基礎購読 中世史料講読
- 4 セメスター 古文書学 中世古文書読解入門
- 5 セメスター 日本史演習 中世政治・社会史の研究 (1)
- 6 セメスター 日本史演習 中世政治・社会史の研究 (2)
- 5 セメスター 日本史演習 中世史料演習 (1)
- 6 セメスター 日本史演習 中世史料演習 (2)

安達宏昭 准教授

- 3 セメスター 日本史各論 近代の仙台
- 4 セメスター 日本史各論 近現代日本とアジア
- 3 セメスター 日本史基礎購読 近現代史料購読
- 5 セメスター 日本史演習 近現代政治社会史の研究 (1)
- 6 セメスター 日本史演習 近現代政治社会史の研究 (2)
- 7 セメスター 日本史演習 近現代史研究法 (1)
- 8 セメスター 日本史演習 近現代史研究法 (2)

池 享 講師 (非常勤講師・一橋大学)

集中講義 日本史各論 日本中近世移行期の社会と国家

3 共通科目・全学科目授業担当

今泉隆雄 教授

- 1 セメスター 総合科目 歴史のなかの東北大学

大藤 修 教授

- 1 セメスター 総合科目 歴史のなかの東北大学

柳原敏昭 准教授

- 2 セメスター 大学生のための情報検索術

- 1 セメスター 総合科目 歴史のなかの東北大

安達宏昭 准教授

- 1 セメスター 総合科目 歴史のなかの東北大学

(2) 他大学への出講 (2005～2009 年度)

今泉隆雄 教授

通年 宮城女子大学大学院人文科学研究科 2005 年度～2008 年度

集中講義 山口大学人文学部 2009 年度

大藤 修 教授

集中講義 富山大学人文学部 2004 年度
放送大学客員教授（大学院生個別指導） 2003 年 4 月～2005 年 3 月
集中講義 放送大学宮城学習センター 2006 年度
テレビ放送用講義 放送大学 2008 年度

柳原敏昭 准教授

国際交流基金日本研究客員教授 インドネシア大学大学院日本地域研究科
2006 年度
集中講義 大阪市立大学大学院文学研究科・文学部 2009 年度

安達宏昭 准教授

立教大学 2007 年度 2 学期〔1 回担当〕
立教大学 2008 年度 1 学期、2 学期〔1 回担当〕
米沢女子短期大学 2008 年度 2 学期〔1 回担当〕
立教大学 2009 年度 2 学期〔1 回担当〕

風間亜紀子

東北学院大学 2009 年度 1 学期、2 学期
宮城教育大学 2009 年度 1 学期